



## 令和4年度 諏訪二葉高等学校評価表(年度当初案)

長野県諏訪二葉高等学校 学校評価委員会

本校の学校教育目標	1 自主 2 努力 3 感謝
中長期目標	1 生徒一人ひとりの個性を伸ばし、主体性のある心豊かな生徒を育成する。 2 開かれた学校をめざし、保護者・地域から信頼される学校づくりを進める。
本年度の重点目標	1 キャリア教育を通じて自ら学ぶ姿勢を育て、生徒の進路希望の実現を図る。 2 「探究的な学び」を取り入れた授業改善により、生徒の課題解決力・コミュニケーション能力の育成、学力向上に努める。 3 いじめ、体罰のない安心・安全な学校づくりを図る。 4 学校生活の基盤となる規律ある生活態度を育成する。 5 生徒会活動や部活動の活性化を図り、生徒の自主性を育てる。 6 地域と連携し、開かれた学校づくりを推進する。

目標の項目別の評価とコメント 評価方法 A : 80%～ B : 50%～ C : 20%～ D : 20%以下 の4段階

重点目標		評価項目	評価の観点	観点別 評価	項目 評価	担当部署
1 生徒の進路 実現を図る	より高い進路意識の育成を図り、分析会議等を充実させ学力向上の改善策を提言する。	①	・PTAと連携した進路講演会の開催や進路通信の発行により、生徒・保護者に必要な情報を提供し、進路実現に向けた高い意識を涵養し、協力関係を強めて進路実現につなげていく。 ・学級担任や学年と連携を図りながら、生徒ひとりひとりの進路相談に応じて個の可能性を開き、きめ細かい指導と情報提供を行って進路実現の手助けをする。			・PTAと連携した進路講演会の開催や進路通信の発行により、生徒・保護者に必要な情報を提供し、進路実現に向けた高い意識を涵養し、協力関係を強めて進路実現につなげていく。 ・学級担任や学年と連携を図りながら、生徒ひとりひとりの進路相談に応じて個の可能性を開き、きめ細かい指導と情報提供を行って進路実現の手助けをする。
			②	・学習・キャリア教育係と連携しながら、模試分析システム等を活用してスタディーサポートや模試の分析を行い、学力・学習実態を把握する。また、充実した指導につなげるため、模試分析会議や進路検討会を開催し、情報を学年・教科と共有する。 ・学力向上および新大学入試に向けて先進的な取り組みをしている学校の例を参考にしながら、本校における改善策を検討・実施する。		
	キャリア教育の充実を図る。	①	Iプロジェクトの計画に従い、次の目標を達成させる指導を行う。 ・総合的な探究の時間、学問研究ゼミを通して自己を理解し、職業観や生き方など自分の将来像を描き、その実現のために学ぶという目的意識を持てるように、寄り添い指導していく。 ・情報収集判断能力、プレゼンテーション能力、自分自身の考えを伝える、相手の考えに耳を傾ける力を育てる。 ・学問探究や幅広い分野についての探究を通して、地域社会の新たな課題を発見し、地域社会の一員として行動する態度を育成することができるようにする。 ・二葉版デュアルシステム（地域や産業界等との連携）を通じ、実際の現場を経験することで、明確な将来像を描きながら学習できるように、計画・実施する。			・各教科や総合的な探究の時間、ホームルーム活動を通して、社会の課題を自己との関わりから発見していく。また解決のために、主体的に探究するとともに、他者との協働により、多面的な見方や互いのよさを認め、社会に役立っていくこととする意欲を養う。 ・情報や情報手段を主体的に選択し活用する力を身につける。グループ学習などの対話的学びを通じて、興味・関心による教科横断的・総合的な活動を行う。プレゼンテーションなどの発表力を向上させ、自分の意見を社会に発信しようとする態度を養う。 ・進路希望に応じて職場体験を行うことで、直接働いている人に接し、実際の知識や技能に触れ、自分の主体的な進路決定していく意欲や社会的役割の重要性や責任感などを培う。

2 生徒の学力向上に努める	生徒の学習意欲の向上に努める。	①	研究授業や授業アンケートの分析に基づき、より一層の授業の充実を図る。生徒の興味、関心を引き出すことができる授業を実践していく。			研究授業や授業アンケートの分析を参考に、一層の授業の充実を図る。生徒の興味・関心を引き出すことができる授業を開発していく。
		②	学習室、テスト前学習室等を設置し、定期考査に向けた学習を大切にさせるような環境・雰囲気作りにつとめる。			学習室、テスト前学習室等を設置し、平素の学習習慣の定着や定期考査前の学習環境・雰囲気作りにつとめる。
	生徒の学習習慣と学力の定着を図る。	①	学習実態調査等を利用し、規律ある生活と家庭学習の習慣の確立を図る。			スタディーサポートの学習実態調査を利用したり、生徒面談を行い、生徒の実態把握に努め、規律ある生活と家庭学習の習慣の確立を図る。
		②	毎日の授業を大切にすることを意識を持たせるとともに、土曜講座や朝・放課後の学習等を充実させる。テスト前学習会を設け、復習、質問等をきめ細かく対応し、さらなる学力の定着をはかる。自ら学ぶ意識を持たせ、家庭学習の充実につなげる。			毎日の授業を大切にすることを意識を持たせるとともに、土曜講座や放課後補習等を設定する。テスト前学習会を設け、復習、質問等、個々の生徒の学習実態に応じた指導を行う。自ら学ぶ意識を持たせ、家庭学習の充実を図る。
3 安心・安全な学校づくりを図る	安心・安全な教育環境を作る。	①	いじめ、不登校など生徒の動向を細かく観察して、問題等を的確に把握し、適切に対処する。			いじめ、不登校など生徒の動向を細かく観察して、問題等を的確に把握し、適切に対処する。
4 規律ある生活態度を育成する	規則を守り、生徒が安心して生活できる環境を整備する。	①	登下校時の街頭指導やHR連絡を通して、交通マナーやルールを守る意識を高めさせる。そして自分自身や周囲の人々の安全にも配慮するように指導する。警察とも連携して登下校時の安全確保に務める。			登下校時の街頭指導やHR連絡を通して、交通マナーやルールを守る意識を高めさせる。そして自分自身や周囲の人々の安全にも配慮するように指導する。警察とも連携して登下校時の安全確保に務める。
		②	高校生らしい頭髪・服装で学校生活が送れるよう、生活委員会からの呼びかけを積極的に言い、家庭とも連携をとりながら、理解や協力を得るように努める。			高校生らしい頭髪・服装で学校生活が送れるよう、生活委員会からの呼びかけを積極的に言い、家庭とも連携をとりながら、理解や協力を得るように努める。
		③	特別な支援を要する生徒の把握に努める。個々の生徒の状況に応じた柔軟で多面的な支援をする。			特別な支援を要する生徒の把握に努める。個々の生徒の状況に応じた柔軟で多面的な支援をする。
5 生徒の自主性を育てる	生徒会活動の活性化を図る。	①	生徒の発想を活かしながら、テーマに沿った文化祭の企画や展示が行われるよう、各係間や生徒と教員との連携を図る。			生徒の発想を活かし、テーマに沿った文化祭の企画や展示が行われるよう、各係、生徒、教員の連携を図る。
		②	各委員会での当番活動を充実させ、生徒が意識と責任をもって委員会活動に取り組むことができるよう努める。特にエコマネジメントについて、各委員会でのどのようなことができるかを検討し、生徒・職員が協力し成果を上げるようにする。			各委員会での当番活動を充実させ、生徒が意識と責任をもって委員会活動に取り組むことができるよう努める。また、エコマネジメントについて各委員会でのどのようなことができるかを検討し、生徒・職員が協力し成果を上げるようにする。
	部活動等の活性化を図る。	①	部活動部が円滑に運営されるよう、部長（代表者）会の開催などにより活動環境を整備するとともに、生徒が自ら意欲を持って取り組めるよう働きかける。			部活動が円滑に運営されるよう、部長（代表者）会を開催し活動環境を整備するとともに、生徒が自ら意欲を持って取り組めるよう働きかける。
6 開かれた学校をつくる	PTA活動の充実を図る。	①	年度当初の混沌を克服し、PTA活動の周知と多くの会員の参加により活動の活性化を図る。無理のない活動や交流の機会を検討する。			引き続きPTA活動が制限されることが予想されるが、PTA役員を中心に話し合いを重ね、HPやオクレンジャー配信を利用して、役員数の縮小、必要会議の厳選や書面決議、必要な活動の見直し、地区懇談会の簡略化などを進めていきたい。
	地域との連携を図る。	①	学校評議員や保護者・地域からの声など外部の意見を積極的に聞くとともに体験入学・公開授業等、学校を開放する機会を設ける。様々な機関と連携し、生徒が探究活動を行えるようにする。			学校評議員や保護者・地域からの声など外部の意見を積極的に聞くとともに体験入学・公開授業等、学校を開放する機会を設ける。様々な機関と連携し、生徒が探究活動を行えるようにする。
	広報活動の充実を図る。	①	教育活動内容をWebサイトを通じて速やかに発信し、生徒の日々の活動が迅速に伝わるようにする。中学校訪問を通じて中学校に学校案内を配布する。			教育活動内容をWebサイト等を通じて速やかに発信し、生徒の日々の活動が迅速に伝わるようにする。中学校訪問を通じて中学校に学校案内を配布する。